



NO.420

R4年7月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

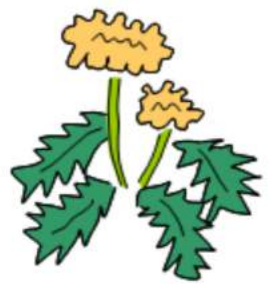
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「異常な状況の中で…」

施設長 木下昭二

ここ数年は、毎年のように日

本のどこかで豪雨災害が発生し、

「異常気象」の文字がニュース

や新聞等で報じられていました

が、今年のこの時期に起こって

いる気象現象はまた異質で、梅

雨が極端に短くしかも少雨で、

梅雨が明けたかと思うと急激な

酷暑となり、連日の気温が35℃ど

ころか、40℃を超える地域が一日

に数カ所も見られており、少雨

の影響により貯水ダムの水位が

下がっていて、本格的な夏を前

に水不足が心配されているとの

報道も見られました。また一方

で、これまで「梅雨がない」と

されていた北海道の一部で大雨

に見舞われ、農作物への被害が

心配されるなど、これまでに見

られなかった、私達が経験して

来なかったような状況が、日本

においてだけではなく、地球規模で発生しているように感じられます。

その日本列島を揺るがすよう

な酷暑に伴い、連日のように電

力の供給逼迫や熱中症の症状に

因る救急搬送者のニュースが聞

かれたり、少し前に遡ってみる

と、「インフルエンザで学年閉

鎖した学校があった」といった

ニュースもありました。「夏の

時期なのに、インフルエンザ？」

は、今は時代遅れの疑問なのか

もしれませんが、私が小さかつ

た頃は「インフルエンザ」冬に

流行するもの」という認識が当

たり前の考えでした。

話しを本題に戻すと、今年の

異常気象の原因はラニーニャ現

象によるものと言われています。

(気象庁ホームページによると…

ラニーニャ現象とは、太平洋赤

道域の日付変更線付近から南米

沿岸にかけて海面水温が平年より低い状態が続く事を言い、エルニーニョ現象とラニーニャ現象が数年おきに発生し、この現象は、日本を含め世界中の異常な天候の要因になると考えられています。日本付近では、夏季は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

気温が高くなる傾向があるとき

は太平洋高気圧が北に張り出し、

事を考えると、どちらに転んでも日本にとっては良い事であるとは思えません。それに加えて今年にはロシアのウクライナ侵攻により、世界有数の穀物地帯の物資・物流が滞っている事が引き金となつて、多種多様な物の価格高騰に繋がっています。更に今年にはそれに追い打ちをかけるように円安ドル高によって、生活する者にとっては、コロナ禍と同様に先の見えない状況に、二重三重の不安に拍車をかけるような状況になっています。

とは言え、この状況をネガティブに捉えようと、どこまでも「暗い気持ち」になってしまいます。これからも「気候変動に因る異常気象」や「世界情勢」に関心をもちつつも、私達は私達の本来の使命である「質の高い福祉サービスの提供」が出来るように日々整えて、利用者の皆さんがコロナ禍においても、引き続き安心・安全に伸び伸びと生活が出来るように努めていきたいと思っています。





7月



1班「様々な経験を経て」

この数年のコロナウイルスにより、私たちの生活の様式が変わりました。その中でも、利用者の方にとってはやはり帰宅の様式が変わったことが一番大きいと感じます。Kさんはコロナ渦になる前には定期的に帰宅されており、衣類は自宅で準備され、帰宅時に衣替えをされていました。コロナウイルス感染対策により帰宅が出来ない状況が続く、その状況下で衣替えをしなければなりません。当初は園内での衣替えが受け入れられず、新たに衣類を購入してもタンスにしまうことさえ抵抗が見られ、季節に応じた衣類への変更が困難でした。

しかし、靴下の提供を受け入れられようになり、先日の帰宅では購入した衣類を着て帰ることが出来ました。長い月日を経ましたが、衣類の提供を受け入れられたことは凄い進歩だと感じています。コロナウイルスという状況が、園内での衣替えが出来たことに繋がったのではないかと感じています。“禍転じて福となす”という諺もあります。まだまだ油断できない状況ですが、憂いてばかりおらず、前向きに物事を捉えるよう努めていきたいと思えます。



支援員 久米 善久

2班「2班の画伯」

Hさんは絵を描くことがとても上手です。これまでに様々な絵を描かれ、地域の展示会に出展しています。Hさんの描く絵は動物が多く、中でも「ライオン」は独特のタッチで個性あふれるオリジナルの「ライオン」です。余暇の時間に、様々な絵のスクラッチアートやスクラッチアートの紙にオリジナルで絵を描くといった取り組みを行っています。その中でも、スクラッチアートの黒い紙にオリジナルで動物を描いていくことがお気に入りの様で、とてもいい表情で取り組まれています。普通の画用紙に描くのも素敵ですが、スクラッチアートの紙に描く絵も、味がありとても可愛らしい作品になります。これからもHさんの好きなことや特技の腕をドンドン伸ばして、沢山の作品を作り上げられるように支援していきたいと思っています。(下の写真は、Hさんの作品です)

支援員 中村 奈実



3班「待ちに！待ちに！待った帰宅の日」

5月28日に今年のお正月以来となる帰宅を実施することができました。帰宅のことを聞いたKさんは「着替えて帰らなんね。」「髪も切らなんね。」と、とても穏やかな様子で話しをされていました。当日は楽しみ過ぎて気分の高揚もみられましたが、この日のために髪を切り、お出掛け用の洋服も着て、静かに迎えを待つ姿を見ることができました。自宅では1ヶ月遅れのKさんの誕生会があり、家族に囲まれてケーキを食べられたそうです。誕生会で嬉しそうにしているKさんの表情が目につきました。Kさんにとっては1泊という、あっという間の時間でしたが、楽しい素敵な時間を過ごすことができたのではないかと思います。コロナ禍により次回の帰宅がいつになるか分かりませんが、その日までKさんと一緒に待ちながら、帰宅に代わる楽しみを提供できるように努めていき、三気の里での生活をより良いものにしていければと思います。

支援員 江越 美保

4班「高齢者支援を通して」

正常圧水頭症の既往があるAさんですが、昨年その代表的な症状である認知症や歩行障害が顕著に見られた時期がありました。幸いにも早期に気づき、入院によるシャント調整で今は劇的に改善しています。しかし、当時は「食事したばかりなのに『ご飯はまだ？』と聞いてくる。」「所かまわず強い口調で怒り出す。」といった言動が日常茶飯事でした。

そんなAさんに対して『認知症の人は「言葉」を単なる「記号」として捉えてしまうことがあり、自らの言動を全て理解しているわけではないけれど、自分の話を「聞いてくれる人」「聞いてくれない人」の理解はしている。』という意識をスタッフ間で共有したことを覚えています。高齢者支援では「バリデーション」と言われる、傾聴や尊敬をベースとした考え方がありますが、高齢者に限らず三気の里の利用者の方々にも広く当てはまることだと改めて考えさせられる出来事でした。

支援員 高橋 一精



5班「制作活動第3弾」

5班では金曜日の午後に創作活動を行っています。今回は夏をテーマにしたひまわりの絵を作成しました。今までは手形を使って桜やかき氷などを作成してきましたが、今回は指や手を使って描くことに挑戦しました。ひまわりの黒い中心部分（筒状花）は指先で点々と描いて表現したり、花びらの部分は指でなぞって描くなど様々な工夫をしながら、利用者の方にあわせて取り組みました。花びらは利用者さんによって長さや太さが違い、それぞれの良さが出ていたと思います。また、葉っぱの部分は今回も手形で描きました。手形は今までに何度か行って慣れていたこともあり、手本を見せるとすぐに出来る方もいて、スタッフと一緒に楽しく取り組むことができました。これからも四季に合わせて創作活動を行っていく予定です。また、創作活動以外にも色々チャレンジすることで利用者の皆さんの新たな魅力を見つけていきたいと思っています。

支援員 中村 圭助

療育雑記

「ワクワク・ドキドキ」とともに！」

業務課長 本田 誠

今回は皆さんにとつての楽しみの一つである外での活動について書きたいと思います。私が入社した15年前、過去のエピソードとして、東京ディズニーランドに行った、皆で飛行機に乗った、海水浴に行った、我が家に泊まったなど、当時の珍エピソードも添えながら話をする先輩スタッフがの姿がありました。当時、皆さんの障がい特性と活動内容がマッチせず、純粋に「凄いなあ」と感じたことを覚えています。しかし、一番印象に残ったことは、過去の出来事を思い出しながら嬉しそうに笑顔で話す先輩の表情でした。現在、コロナ禍により、外での活動に制限が伴う状況ですが、15年前の出来事を思い出し、気が付くと嬉しそうに先輩スタッフに話をしている自分自身がいます。嬉しそうに過去を回想する先輩と私自身の共通点として、計画の段階から安心、安全を後回しにして、ワクワクとドキドキが入り混じる内容であったように感じます。リスクを回避することなく、利

用者さんの楽しみだけに重きを置き、無謀な内容の中でも無事に三気の里に戻って来られたことに達成感を抱いていたように感じます。しかし、活動の中で多くの失敗も経験しました。韓国という異国の地で利用者さんを見失ったこと、動物が苦手な方に対して間近で見られるプランを計画してしまったこと、バッキングで食べさせ過ぎてお腹を壊させてしまったことなど、皆さんにご迷惑をお掛けしたことも多々あります。しかし、この経験から多くの学びを得ました。先日、ある保護者から、我が子は社会活動に参加する中で得た、成功や失敗を学びに変えて行くというお言葉を頂きました。また、児童施設で勤務する私の知人は、子ども達に「日本一」を体感し、これからの人生において達成感と自信を得て欲しいとの想いで、日本一の富士山登頂を成功させました。外での活動には、絶えずリスクが伴いますが、リスクを恐れ避けるばかりでは互いに得るものは少ないです。リスクと向き合い乗り越えることで達成感を得ることができ、後の学びや成長に繋がると感じています。私自身、活動を計画する段階で、真っ先にリスクが浮かんでしまい、回避する中でいかに楽しい内容と

なるかを考えてしまいます。しかし、若いスタッフは頭の固い私と違い、利用者さんにとつての楽しみを一番に考えることができず、利用者さんにとつては、一番嬉しいことであり、また、このような計画が次々に上がってくる部署は活気に満ち溢れています。若いスタッフの無謀な計画を跳ね返すのではなく、どうすれば実現するかを陰でサポートすることが私の役割だと捉えています。10年後、今の若いスタッフが過去のエピソードとして、嬉しそうに若いスタッフに話をする日を期待しております。



BE TREE

「一般就労に向けて」

支援員 毛井 寛康

利用を始めて2年になるAさん、利用する前は13年間自宅で生活されてきました。その頃は企業で勤務されていましたが、会社が倒産という不遇の事態により退



職となり、次の職場を探していませんでした。しかし、なかなか上手くいかず、次第に働くことへの自信を失っていききました。2年前体験利用に來られた時には、熱心に仕事に取り組まれる姿が印象的でしたが、生活の様々な場面で慌ててしまい、他者と接触してしまふことが多く、本人も悩んでいらつしやいました。本人と話し合い、一つひとつ丁寧に行動することを意識出来るように、支援やケアを行っていくことで、徐々に自信を取り戻されているようです。現在も、時折慌てて行動してしまうことはありますがスタッフが声を掛けることで、「次、気を付けよう」と意識して行動できることが増えてきました。まだまだ、必要な支援はあると思いますが、Aさんが自信を持って一歩ずつ目指すべき未来（一般就労）へ向かっていけるよう、しっかりとサポートやケアを行っていききたいと思ひます。

課長便り

「新人支援員は施設

(先輩支援員)のかがみ」

支援課長 岩田 幸児

新人支援員が入職し、2カ月余りが経過しました。“新人”というものの、近年は、新卒だけでなく中途採用の方の入職も増えてきています。今年度は、

高齢者介護施設での経験のある支援員、社会人として初めて働く支援員と様々です。当初は利用者の方との接し方も、どことなくよそよそしさを感じていました。しかし、時間の経過とともに、利用者の方も支援員もそれを感じさせないような空気感になってきました。そんなある日、新人支援員と利用者の方との会話での言葉遣いにふと違和感を覚えました。“馴れてきた”

けの仕方はどうなのか？職場に馴染むことは大事なことです。が、親しき中でも礼儀あり、利用者の方とも職員間でも、お互いを尊重し、礼節を持った“馴れ”であってほしいと思います。

高齢者介護施設での経験のある支援員の感染予防対策は、私達も見習うべきことが沢山あります。その姿から、その施設の徹底した予防対策が見て取れるように感じています。



イベント食

「イベント食」

栄養士 前田 はる美

今年度もイベント食を実施しています。月毎にメニューを変えながら、ピクニックランチやトルコライスランチ、焼き肉弁当や洋風バラエティ弁当無添加特濃プリン付き、桜えび炊き込み飯(全国駅弁の旅シリーズ)、

七夕ランチ、土用丑の日等々です。四季折々の食材を取り入れ、メニューを考え利用者の皆様に食事を通して気分転換をして頂けたらという想いで、提供しています。もちろん、アレルギーや自閉症の方の特性などで、苦手な食材がある方には別メニューでの提供もさせていただいています。

実施するにあたり、数日前からイベント食のポスターを廊下や食堂に掲示するや否や、皆さん穴が開くほどメニューのチェックをされます。楽しみを隠しきれずニコニコされます。イベント当日、食べてしまうのは一瞬ですが、ほとんどの方が完食されるので嬉しい限りです。

さて、次は何のイベント食でしょう？まだまだ暑さはこれからですが、皆さんお楽しみに！



7月スケジュール

1(金) アンパ創作活動
 8(金) ブラッシング指導
 9(土) 4R白川
 15(金) 夏祭り、アンパの日
 19(火) 囁託医来診
 20(水) 誕生会
 29(金) BeTREE勉強会

毎週月曜日訪問理容サービス
 毎週木曜日ローソン移動販売

BE TREE
 <営業時間>8:00~18:00



betree314

行事便り

「スタート会」

支援員 八木 良江

今年度も1年間皆で、のん気、
 こん気、げん気に頑張りましょ
 うという気持ちで6月11日にスター
 ト会を開催しました。コロナ禍
 になり、昨年に引き続きホテル
 での食事会とはなりません。で
 たが、梅雨に入り少し肌寒い中、
 体育館で行いました。式典では、
 成人のお祝い、W成人のお祝い、
 古希、喜寿のお祝いをしました。
 今年は成人から喜寿と幅広く20歳
 から77歳までの方のお祝いをする
 ことができました。記念品とし
 て、皆さんが三気の里で生活や
 活動されてきた記録の写真をア
 ルバムとしてお渡ししました。
 皆さんそれぞれに、受け取った
 アルバムを嬉しそうに眺められ
 ています。

また、その後は若手スタッフ
 有志による、間違い探し、ジエ
 スチャーゲーム、昭和の懐メロ
 音楽祭など盛りだくさんの出し

物に、皆さん応援したり、歌つ
 たりと笑顔満載のスタート会と
 なりました。午後からの活動も
 ドライブ、カラオケ、映画鑑賞
 などあり、利用者の皆さんそれ
 ぞれ好きな活動を選び楽しまれ
 ていました。特にカラオケでは
 マイクの取り合いになるほど、
 思う存分歌い楽しまれていた姿
 に、今年もコロナに負けず、笑
 顔いっぱいこの年になると確信し
 ました。



【寄付】

島津健二様 金森保様
 春野宗敏様 三気の里家族会様

【物品】

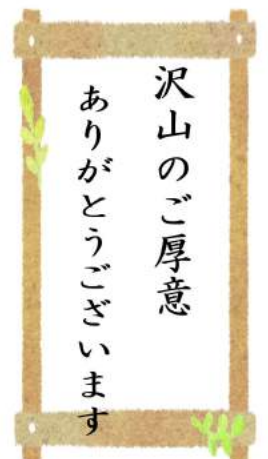
高村茂子様 児玉静子様
 吉田和信様 松村俊介様
 森川琇介様 魚谷秀文様
 清田栄一様 金森保様
 櫻木勇夫様 東坂富士代様
 宮本真一様 井手上昌子様
 渡邊正司様 坂本様
 田中満子様 大津支援学校様
 大津町社会福祉協議会様
 大津中奉仕委員会様

【後援会】

魚谷郁子様 堀内與様
 日置政宏様 田中健二郎様
 亀崎憲様

【ボランティア】

前淵隆子様(ブラッシング指導)



沢山のご厚意
 ありがとうございます